

損益状況

●3行単体合算

(単位:億円)

	平成24年度	平成25年度	前年比
業 務 粗 利 益	1,890	1,811	▲ 78
資 金 利 益	1,555	1,529	▲ 25
役 務 取 引 等 利 益	190	185	▲ 5
特 定 取 引 利 益	1	1	0
そ の 他 業 務 利 益	144	96	▲ 49
経費(除く臨時処理分)▲	1,009	1,008	▲ 2
業 務 純 益※1	954	668	▲ 285
コ ア 業 務 純 益※2	769	749	▲ 19
信 用 コ ス ト※3▲	71	82	11

「コア業務純益」は、資金利益の減少を主因として前年比▲19億円減少し、749億円となりました。

「連結経常利益」は、コア業務純益の減少に加え国債等債券損益の減少等により、前年比▲118億円減少し、570億円となりました。

「連結当期純利益」は、前年特殊要因の剥落(退職給付信託解約損▲139億円計上)による特別損益の改善等により前年比+41億円増加し、362億円となりました。**【2年連続過去最高益】**

●FFG連結

経 常 利 益	688	570	▲ 118
当 期 純 利 益	321	362	41

※1 業務純益＝業務粗利益－経費(除く臨時処理分)－一般貸倒引当金繰入額

※2 コア業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券損益

※3 信用コスト＝一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理額

主な指標

(単位:%)

	平成25年 3月末	平成26年 3月末	25年3月末比
不良債権比率 (3行単体合算・部分直接償却後)	2.81	2.49	▲0.32
自己資本比率(連結)	12.26 (パーゼルⅡ)	10.28 (パーゼルⅢ)	

不良債権比率は、25年3月末比0.32%低下し、2.49%となりました。

自己資本比率は、26年3月末から新基準(パーゼルⅢ)に基づき算出しております。新基準に基づく自己資本比率は、10.28%となりました。

総資金(預金+NCD)の状況(3行単体合算)

総資金(預金+NCD)は、3行ともに堅調に推移しました結果、前年度末比5,059億円増加し、12兆2,786億円となりました。
※NCD…譲渡性預金

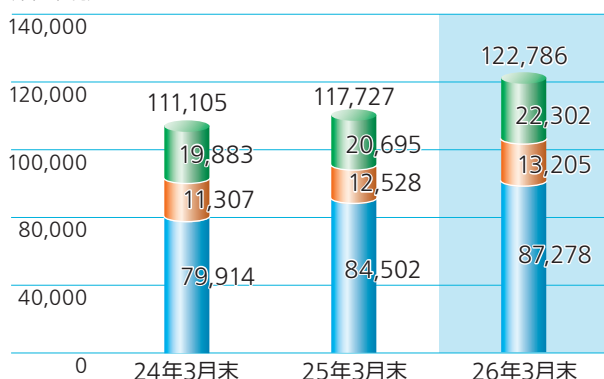
貸出金の状況(3行単体合算)

貸出金は、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えしました結果、前年度末比4,336億円増加し、9兆6,848億円となりました。

総資金残高(期末残高)

福岡銀行 熊本銀行 親和銀行

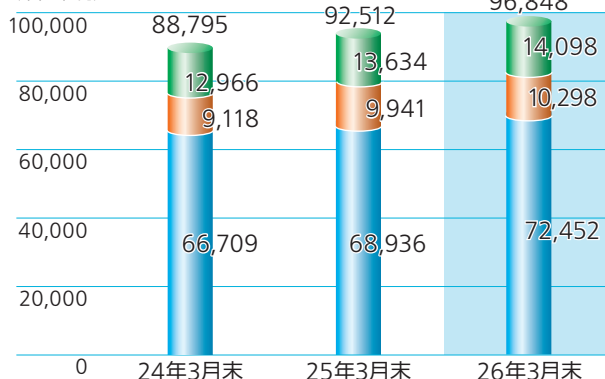
(単位:億円)



貸出金残高(期末残高)

福岡銀行 熊本銀行 親和銀行

(単位:億円)



損益状況(単体ベース)

		(単位:億円)		
		平成24年度	平成25年度	前年比
業 務 粗 利 益		1,344	1,302	▲42
資 金 利 益		1,082	1,082	▲0
国 内 部 門		1,034	1,024	▲10
国 際 部 門		48	58	10
役 務 取 引 等 利 益		142	137	▲5
特 定 取 引 利 益		1	1	0
そ の 他 業 務 利 益		119	82	▲37
経費(除く臨時処理分)▲		651	654	2
業 務 純 益		773	584	▲188
コ ア 業 務 純 益		599	598	▲1
経 常 利 益		658	599	▲59
当 期 純 利 益		331	404	73
信 用 コ ス ト ▲		41	12	▲29

「コア業務純益」は、国内資金利益および役務取引等利益の減少を国際資金利益の増加およびその他業務利益(国債等債券損益除く)でほぼカバーし、前年比▲1億円の598億円となりました。

「経常利益」は、国債等債券損益の減少および借入金の上上げ返済等に伴うその他臨時損失の増加により、前年比▲59億円減少し、599億円となりました。

「当期純利益」は、特別損益の改善等により、前年比+73億円増加し、404億円となりました。

【4年ぶり過去最高益】

主な指標

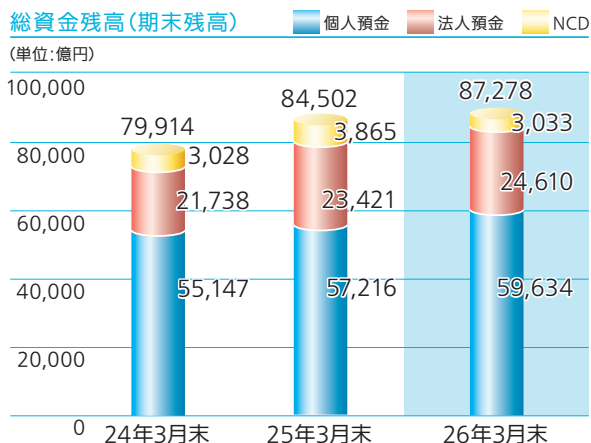
		(単位:%)		
		平成25年 3月末	平成26年 3月末	25年3月末比
不良債権比率 (単体・部分直接償却後)		2.70	2.32	▲0.38
自己資本比率(連結)		12.93 (パーゼルⅡ)	10.72 (パーゼルⅢ)	

不良債権比率は、25年3月末比0.38%低下し、2.32%となりました。

自己資本比率は、26年3月末から新基準(パーゼルⅢ)に基づき算出しております。新基準に基づく自己資本比率は、10.72%となりました。

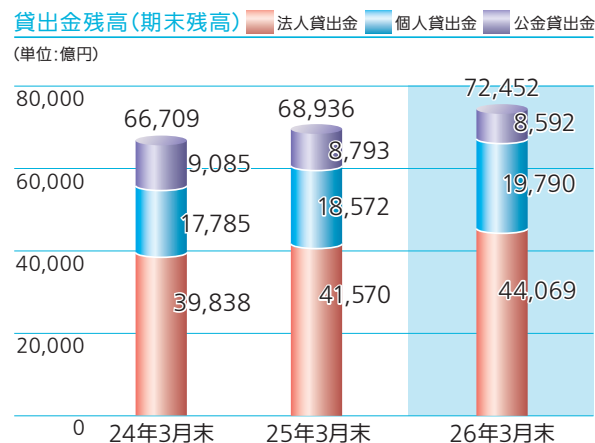
総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年度末比2,775億円増加し、8兆7,278億円となりました。



貸出金の状況

公金貸出金は減少しましたが、法人貸出金が順調に増加した結果、総貸出金は前年度末比3,516億円増加し、7兆2,452億円となりました。



損益状況（単体ベース）

(単位:億円)

	平成24年度	平成25年度	前年比
業 務 粗 利 益	215	204	▲ 11
資 金 利 益	192	186	▲ 7
国 内 部 門	192	186	▲ 6
国 際 部 門	1	▲ 1	▲ 1
役 務 取 引 等 利 益	13	14	1
特 定 取 引 利 益	—	—	—
そ の 他 業 務 利 益	9	4	▲ 5
経費(除く臨時処理分)▲	148	143	▲ 5
業 務 純 益	55	30	▲ 25
コ ア 業 務 純 益	60	60	0
経 常 利 益	31	12	▲ 18
当 期 純 利 益	66	50	▲ 16
信 用 コ ス ト ▲	24	30	6

「コア業務純益」は、国内資金利益の減少を経費削減等によりカバーし、前年比横ばいの60億円となりました。

「経常利益」は、信用コストの増加および国債等債券損益の減少等により、前年比▲18億円減少し、12億円となりました。

「当期純利益」は、前年比▲16億円減少し、50億円となりました。

主な指標

(単位:%)

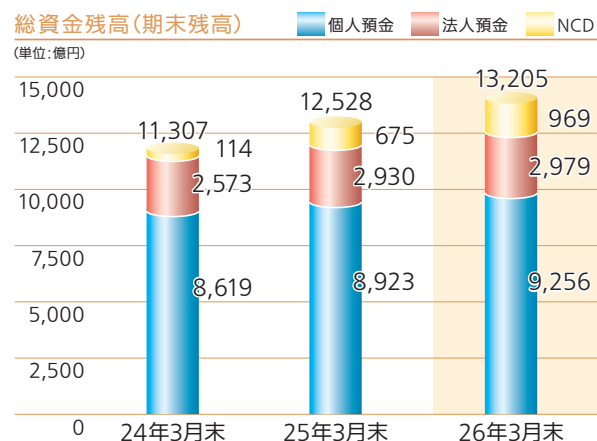
	平成25年 3月末	平成26年 3月末	25年3月末比
不良債権比率 (単体・部分直接償却後)	3.07	2.97	▲0.10
自己資本比率(単体)	10.38 (バーゼルⅡ)	10.60 (バーゼルⅢ)	

不良債権比率は、25年3月末比0.10%低下し、2.97%となりました。

自己資本比率は、26年3月末から新基準（バーゼルⅢ）に基づき算出しております。新基準に基づく自己資本比率は、10.60%となりました。

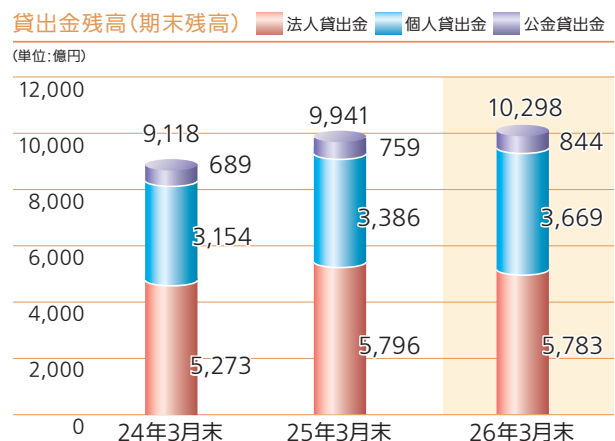
総資金（預金+NCD）の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年度末比676億円増加し、1兆3,205億円となりました。



貸出金の状況

住宅ローンを中心とする個人貸出金が順調に増加した結果、総貸出金は前年度末比356億円増加し、1兆298億円となりました。



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成24年度	平成25年度	前年比
業 務 粗 利 益	331	305	▲ 25
資 金 利 益	280	262	▲ 18
国 内 部 門	279	262	▲ 17
国 際 部 門	1	▲ 0	▲ 1
役 務 取 引 等 利 益	35	34	▲ 0
特 定 取 引 利 益	—	—	—
そ の 他 業 務 利 益	16	9	▲ 7
経費(除く臨時処理分)▲	210	211	1
業 務 純 益	126	54	▲ 72
コ ア 業 務 純 益	110	91	▲ 18
経 常 利 益	110	55	▲ 55
当 期 純 利 益	50	46	▲ 4
信 用 コ ス ト ▲	6	40	35

「コア業務純益」は、国内資金利益の減少を主因として、前年比▲18億円減少し、91億円となりました。

「経常利益」は、コア業務純益の減少と信用コストの増加により、前年比▲55億円減少し、55億円となりました。

「当期純利益」は、特別損益の改善等により、前年比▲4億円減少し、46億円となりました。

主な指標

(単位:%)

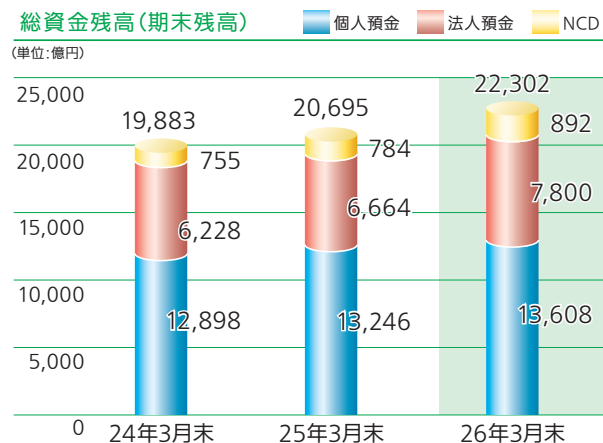
	平成25年 3月末	平成26年 3月末	25年3月末比
不良債権比率 (単体・部分直接償却後)	3.19	3.06	▲0.13
自己資本比率(単体)	11.89 (パーゼルⅡ)	10.74 (パーゼルⅢ)	

不良債権比率は、25年3月末比0.13%低下し、3.06%となりました。

自己資本比率は、26年3月末から新基準(パーゼルⅢ)に基づき算出しております。新基準に基づく自己資本比率は、10.74%となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年度末比1,607億円増加し、2兆2,302億円となりました。



貸出金の状況

法人貸出金が順調に増加した結果、総貸出金は前年度末比463億円増加し、1兆4,098億円となりました。

